

Google Cloud の DWH、Data Mart としての活用方法

.....
BASE株式会社

Data Strategy Section Manager

鈴木 僚

Google Cloud

はじめに



自己紹介

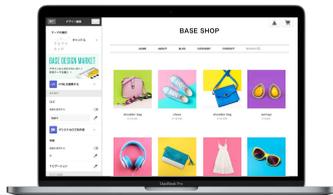
鈴木 僚 (Ryo Suzuki)

- 2017年10月にBASEにジョイン。
- データ分析から事業戦略までを担う DataStrategy部門を率いている。
- 専門は NLP。
- 日本アイ・ビー・エムにて ThinkPad 及びその生産システム、全社購買システム構築に従事
- コンサルティングファームにてコスト戦略・事業再編等を担当
- 台湾・香港・中国にて新規事業の展開
- 2014年、DMM.com で 3D プリント事業及びロボット事業の設立・技術担当を兼任

Google Cloud



ネットショップ作成サービス「BASE」



ショップ開設数

130万ショップ以上

(個人・法人・行政を含む)

コンセプト:「誰でも簡単に使えるネットショップ作成サービス」

初期費用・月額費用

0円

BASEかんたん決済利用料

3.6%+40円

サービス利用料

3%

個人でも決済機能をかたん導入。
審査もスピーディー！

クレジットカード



キャリア決済



銀行振込



コンビニ決済・Pay-easy



後払い



ショップオーナーのサポート機能が充実！

(BASE Apps)



Google Cloud

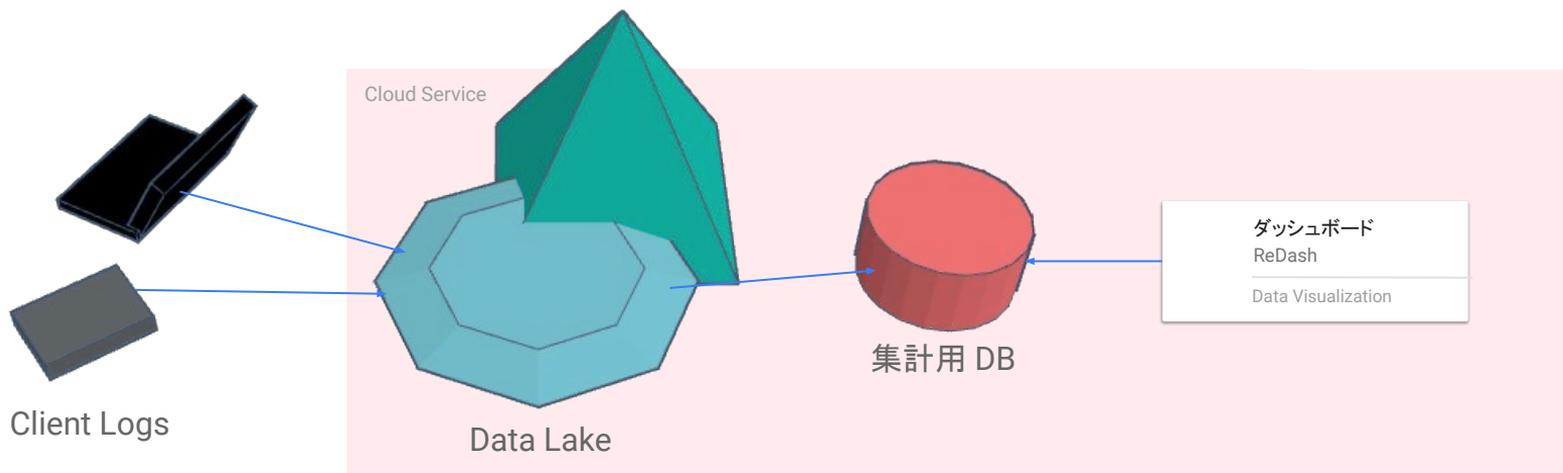


BASE における
データ集計・
分析の歴史



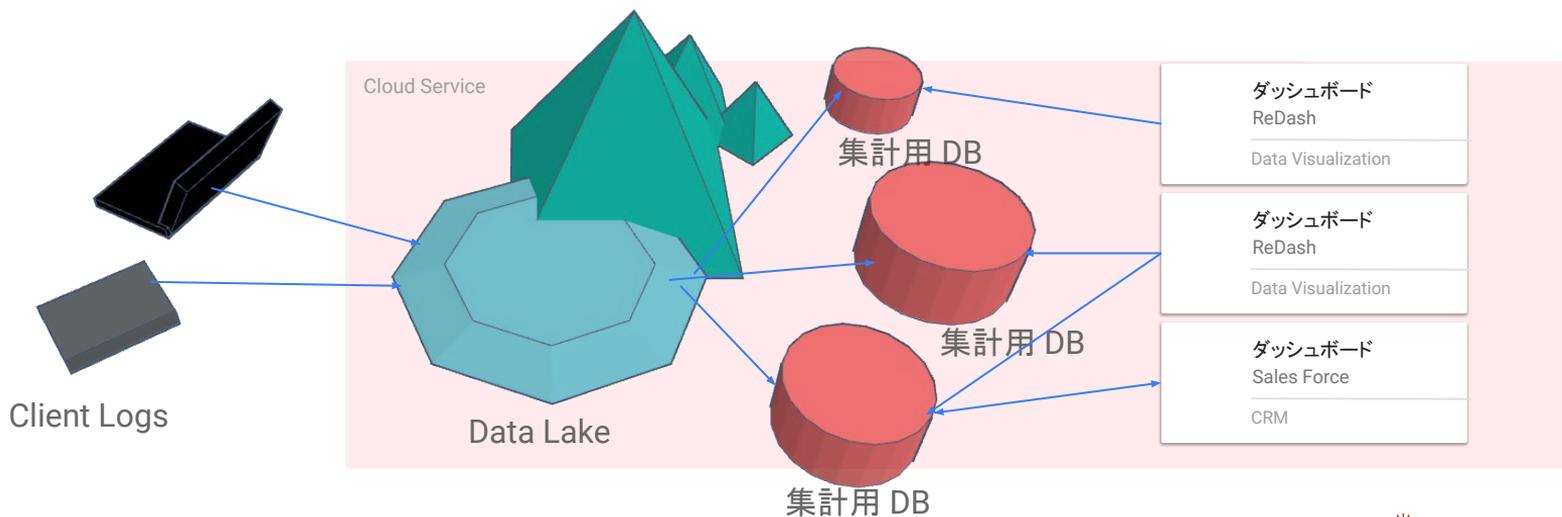
2017 年

- 初歩的な Data Lake が存在
- ダッシュボードツールとして ReDash を利用開始



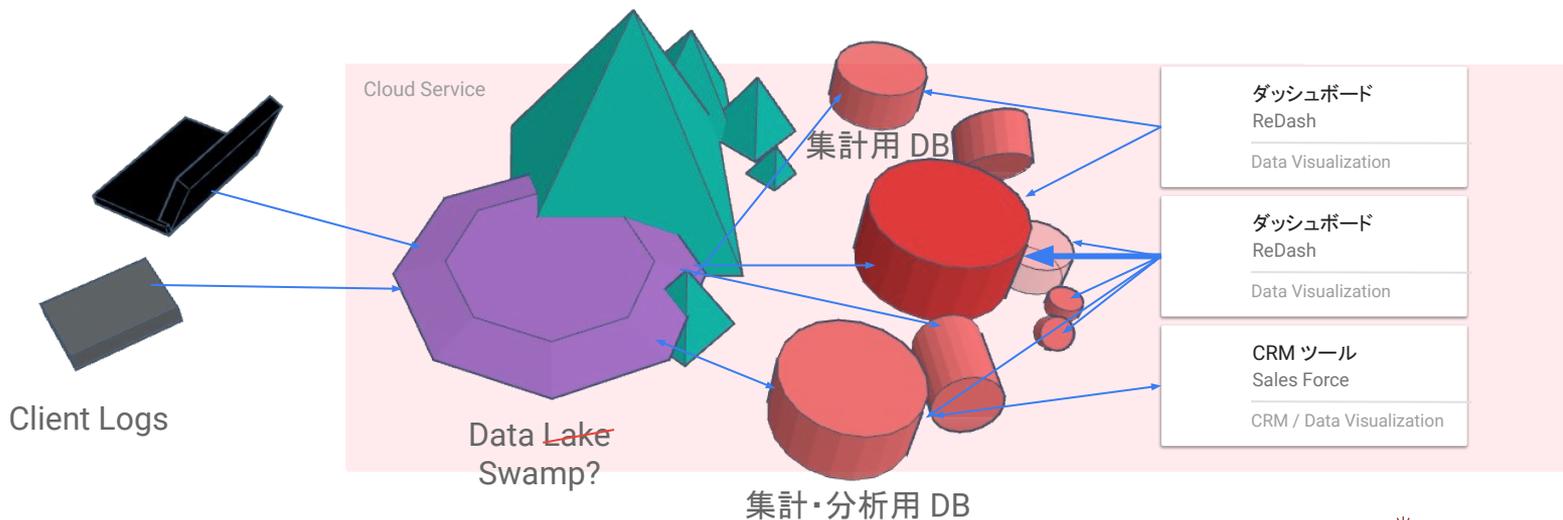
2018 年

- 増えていくメンバー、組織
- それに伴って増えるダッシュボードツール群



2019 年

- さらに増えるメンバー、組織、PJ、そしてデータ量
- リテラシーの高まりによるスロークエリの多発



2020 年

- ストリーミングデータの活用開始
- Data Ware House と同等環境になっている自チームの環境
- Data Lake - Data Ware House まで完成している
- 自チーム内で BI ツール (Looker) を使用したいと宣言するチームが出現
- BI ツールによるアクセス負荷が他に影響を与えない仕組みを早急に構築する必要がある = Data Mart が必須
- Data Ware House - Data Mart を素早く構築する方法を模索

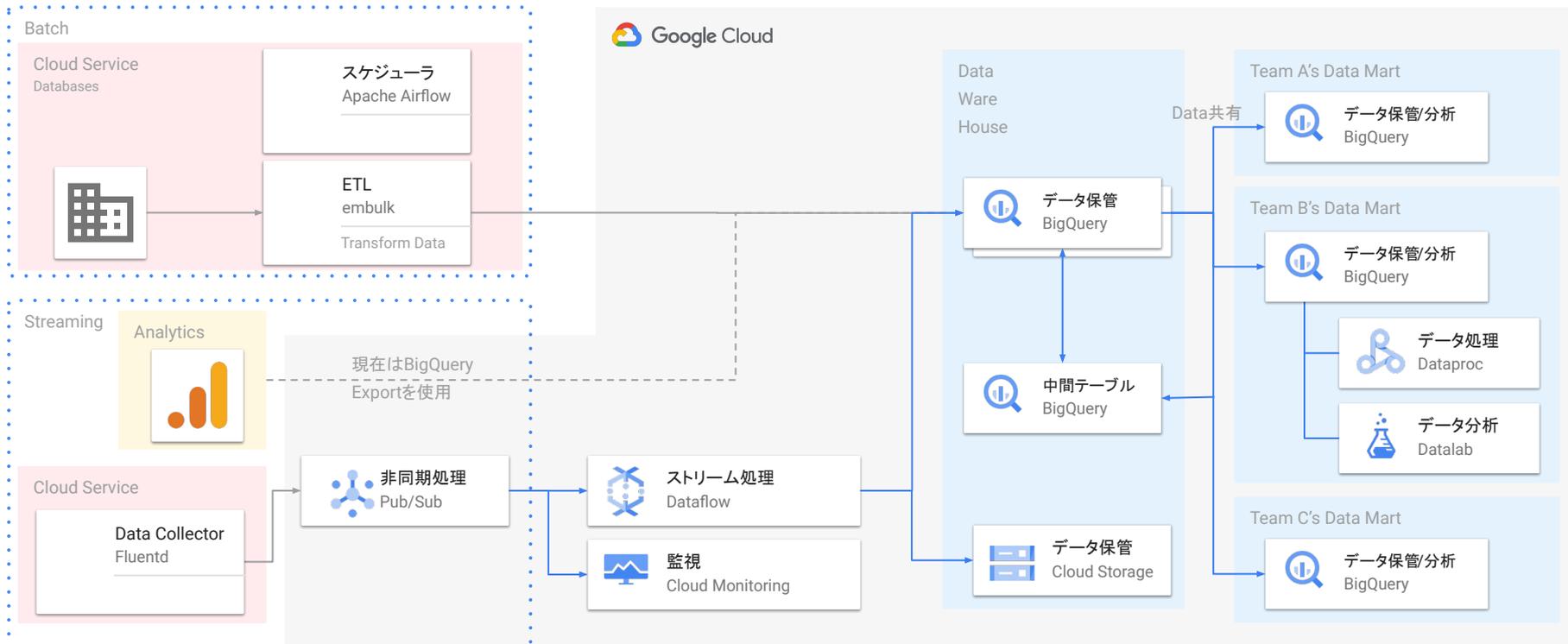
選定候補

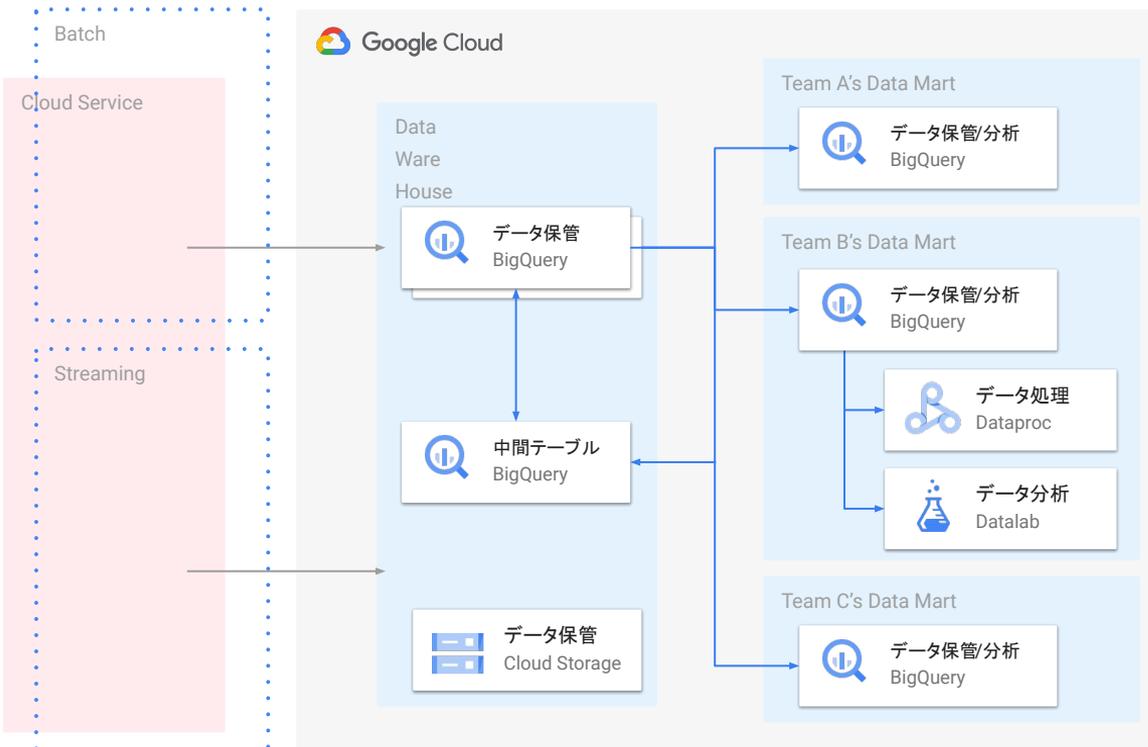
- 弊社では他社クラウドサービスをメインで使用
- そこにも Data Ware House として使用可能なサービスが存在
- 試験的に導入したがエンタープライズ向けであり、専任のチームが必要そう
- **弊社アプリでは Firebase を活用しており、そのログ集計・分析基盤として BigQuery の使用実績有**
- 2020 年 8 月時点で**年内リリース**目標で構築開始

2021 年現在の
アーキテクチャ



BASEにおけるデータ集計・分析基盤



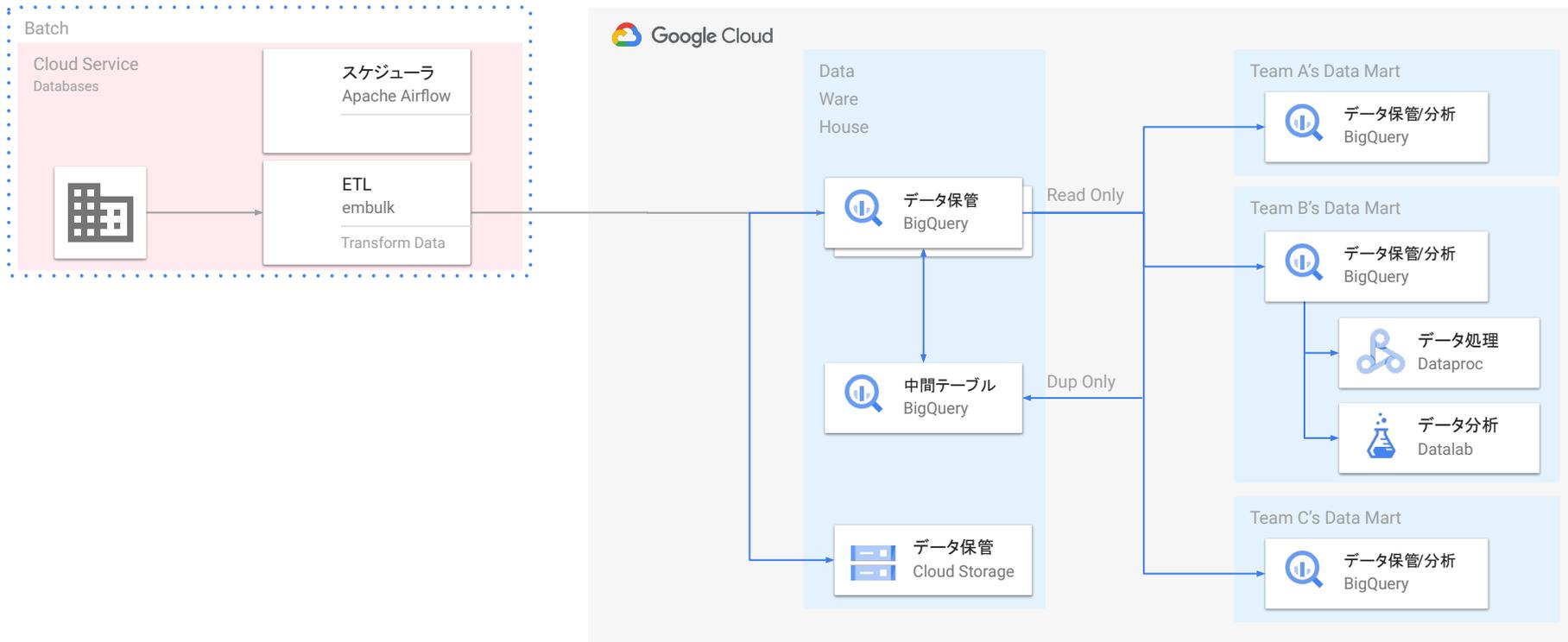


特徴

- マルチクラウド対応
 - バッチ系
 - ETL+スケジューラ
 - ストリーミング系
 - Kafka/Fluentd
- チーム単位のデータマート
 - ACL
 - 課金状況
 - 負荷分散
 - DWH へのデータ還元
- シンプルですばやく運用へ
 - 3ヵ月で運用開始

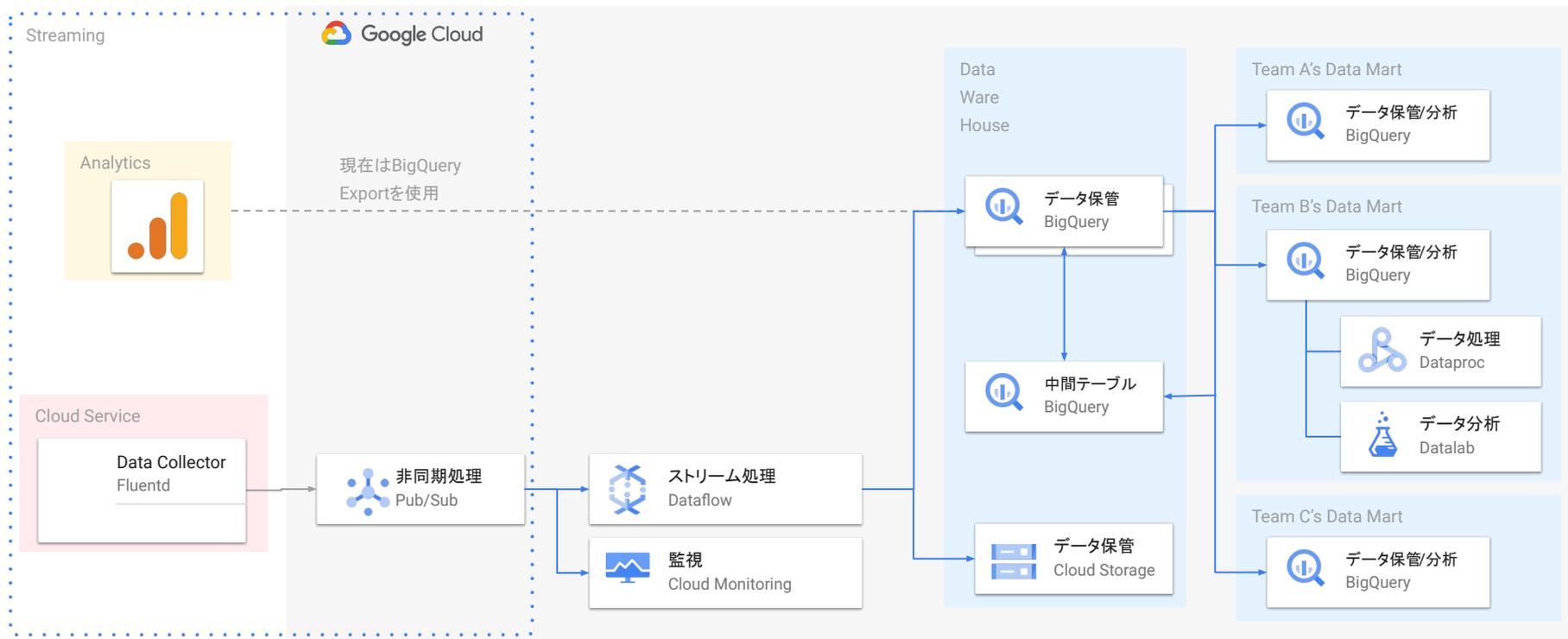
Batch 系

BASEにおけるデータ集計・分析基盤 Batch 系



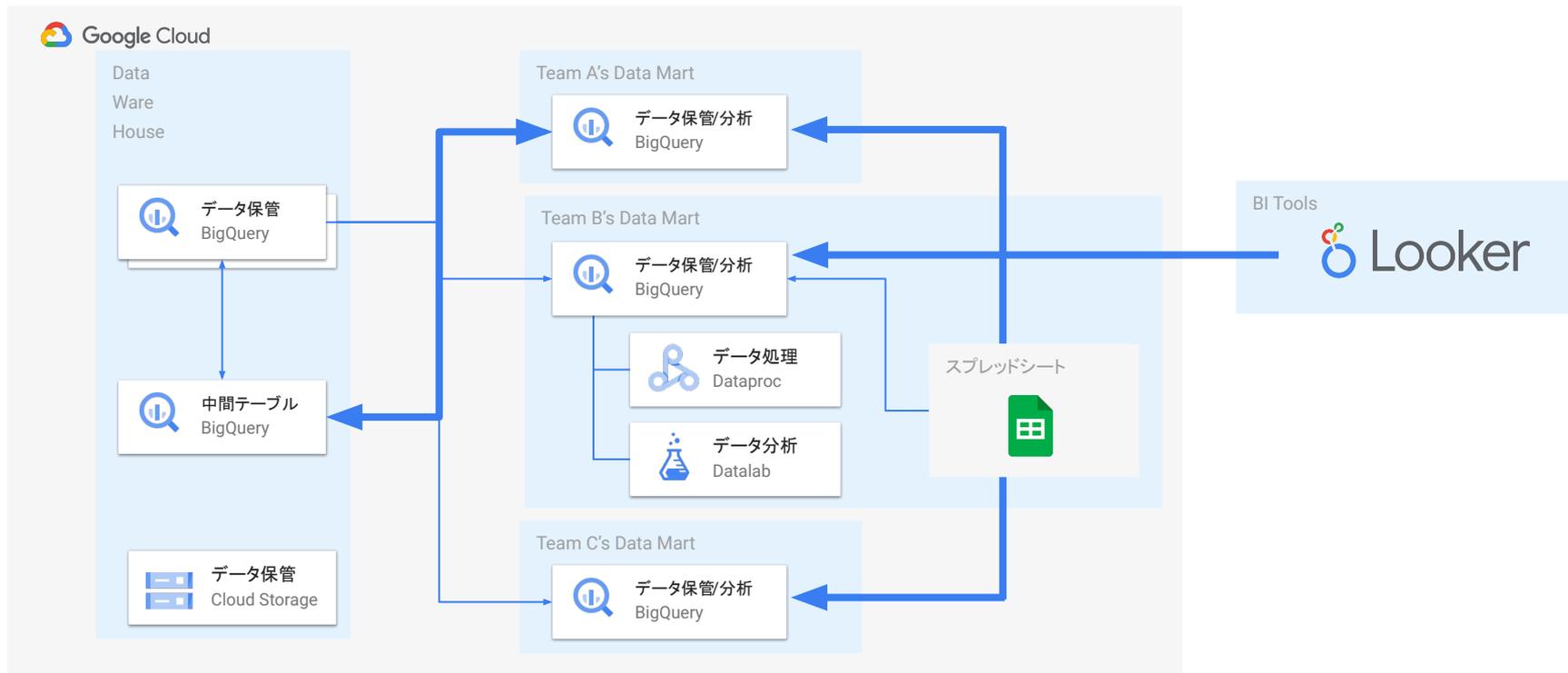
Streaming 系

BASEにおけるデータ集計・分析基盤 Streaming 系



Data Mart の活用

BASE におけるデータ集計・分析基盤 DWH / Data Mart / BI Tool



Data Strategy
チームの紹介



Data Strategy Team

Mission

- BASE 内外のデータ活用から戦略までを担当
- ビジネスから開発まで、幅広いチームと協業

主な担当領域

- サジェスト・レコメンド
- 未来予測
- 異常検知
- Marketing Automation
- 検索エンジンの精度向上
- データ収集・分析

Google Cloud



Thank you